

農林水産部

名護市勝山集落が農林水産大臣賞を受賞

平成23年度農林水産祭むらづくり部門

POINT

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と(財)日本農林漁業振興協会との共催により、昭和37年から実施されています。

平成23年度(第50回)農林水産祭むらづくり部門において、名護市勝山集落(代表者：具志堅勝山区長)が農林水産大臣賞を受賞しました。

名護市勝山集落の受賞は、山々に囲まれた起伏の激しい地形にありながら、昔から地域にある資源「シークワサー」、「山羊」、「山」に着目し、「3つの宝でむらおこし」をスローガンに地域住民が一致団結して取り組んだ農業を核とした総合的なむらづくりが、地域の振興、発展に大きく貢献しているとして高く評価されたものです。

以下、名護市勝山集落の取組について紹介します。

〇むらづくりの特色

勝山集落は、総世帯数54戸、人口142名で構成され、うち農家世帯が27戸となっています。集落では、住民全員が参加している自治組織(勝山区)があり、区民総会を主体とし、区長及び評議委員会を中心に運営が行われています。また、区の中心的なメンバーが、地域農業を振興する組織の代表でもあることから、区とそれぞれの組織の活動が互いに意見を反映できる仕組みをつくることで、一体的に地域づくりに取り組んでいます。

〇3つの宝

(シークワサー)

収益性が低く基幹的な作物とは成り得なかつたシークワサーを、収穫期の最初2ヶ月は青切りして「酢の物用」、次の2ヶ月半はジュース等「加工用」に、最後の2ヶ月半は完全させて「果実用」として販売することで、地元で生産から加工、販売までの一元的な流通体制を整備し、勝山産シークワサーブランドを確立しています。

(山羊)

生産組合の結成をきっかけとし、遊休地利用、草地造成、シークワサーの搾りかすを利用した飼料開発等を図りながら、生産振興に取り組んでいます。

また、行政と連携し、産業化に向けて生産量の多い新品種の導入等を図り勝山産のブランド山羊の増産に向けて検討を進めています。

〇集落の取り組み

勝山集落は、住民全員が参加する自治組織(勝山区)を中心に、区民運動会、お祭り等各種行事に取り組んでいます。

各種行事では、高齢者が積極的に参加することで活発な世代間交流が図られており、集落の伝統・文化・歴史等の次世代への継承が図られています。



受賞した勝山集落の皆さん(前段)
左から、仲里氏(名護市勝山山羊生産組組合長)、山川氏((有)勝山シークワサー代表取締役)、具志堅氏(勝山区長)、具志堅氏(勝山つたえ隊代表)

〇むらづくりの特色

勝山集落は、総世帯数54戸、人口142名で構成され、うち農家世帯が27戸となっています。集落では、住民全員が参加している自治組織(勝山区)があり、区民総会を主体とし、区長及び評議委員会を中心に運営が行われています。また、区の中心的なメンバーが、地域農業を振興する組織の代表でもあることから、区とそれぞれの組織の活動が互いに意見を反映できる仕組みをつくることで、一体的に地域づくりに取り組んでいます。



青切りシークワサー

(山)

勝山集落を取り囲む嘉津宇岳、古巣岳、八重岳、安和岳には、植物地理学上、貴重な植物が生育し、国や県



肉生産量の多い山羊の導入

指定の天然記念物が生息することから、その貴重な自然・景観を広く伝えるべく観光ガイドの団体「勝山つたえ隊」が結成され、トレッキングコースの設定・管理・案内等の活動を行っています。



新緑登山



世代を超えるむらづくりの取組